

■木村莊平 明治維新直後の牛鍋ブームに乗り、20余人の妾に次々とチェーン店を持たせて、{いろは}王国を築く。

きむらそうへい

勸進帳初演・1840＝ 山城国宇治田原で、皇室の御料地を耕作し製茶や柿渋製造もする農家の子に生まれる。

阿部正弘首座1845＝ 5歳：

北斎没・・・1849＝ 9歳：

ペリー来航・1853＝13歳：

五ヶ国条約・1858＝18歳：

桜田門外変・1860＝20歳：

若い頃は乱暴者で父から勘当されたが、

母のとりなしで解かれると、家業を手伝い、実家で採れた野菜を京都で売るなど、産地直送に目覚め、

開港による茶の輸出ブームに乗って大儲け、

「やがて、薩摩藩の御用商人となり、

大政奉還・・・1867＝27歳：

明治維新・・・1868＝28歳：

鳥羽伏見の戦いには薩摩藩京都蔵屋敷に物資を納入、代金の支払いを受けられず大損害を受けるも、新政府要人らとの人脈ができる。

学問のすすめ1872＝32歳：

明治6年政変 1873＝33歳：

この年、天皇の牛肉試食や僧侶の肉食許可などで、肉食タブーが公的に解除されると、

牛肉が流行の最先端に行く食べ物となり、

三つの内乱・1876＝36歳：

西南戦争・・・1877＝37歳：

大久保暗殺・1878＝38歳：

この年までに、東京市内に500軒近い牛鍋店を数えるほどになる。

\*大久保利通の懐刀警視庁大警視川路利良から呼ばれて上京、内務省の奨励業務の一貫としての屠場監理を命じられて東京に居を移すと、三田の動物育種場の払下げを受けて{興農競馬会社}を創業。

明治14年政変1881＝41歳：

\*三田で羊肉店を開くも売れなかったため、ブームの最中にある牛鍋に転換すると、良質の肉を安く提供できたことから、瞬く間に成長し始め、

「以後、{第一いろは}{第二いろは}と、次々と妾に店を持たせ、

内閣発足・・・1885＝45歳：

「さらに、30人に上る子らによって、展開して行く。

初の対等条約1888＝48歳：製糖会社を設立。

帝国憲法発布1889＝49歳：

帝国議会始・1890＝50歳：

肥料会社を設立。

郡司千島探検1893＝53歳：

\*日暮里・亀戸・萩新田にあった三つの火葬場を統合して{東京博善会社}を設立、日暮里に現在のものに近い新式の火葬設備を置く。

日清戦争始・1894＝54歳：

日比谷公園・1903＝63歳：

日露戦争終・1905＝65歳：

満鉄発足・・・1906＝66歳：

\*没した。あまりに高価で利用のなかった{東京博善会社}特等による初の火葬者となった。

子の木村莊子(ペンネームは曙)と莊太は小説家、莊八は画家、莊十二は映画監督で著名になる。

山田風太郎「人間臨終図巻」、インターネット、